

## 橋脚の設計・3D配筋 (旧基準) Ver.14

旧基準 プログラム価格  
 ¥338,800  
 (税抜¥308,000)

保耐法拡張オプション  
 (旧基準)  
 ¥55,000  
 (税抜¥50,000)

REED工法オプション  
 (旧基準)  
 ¥330,000  
 (税抜¥300,000)

### 【主な機能】

- 単柱式及び壁式RC橋脚の新設設計、既設検討、補強設計
- 安定計算、はり、柱、フーチングの部材設計
- 許容応力度法、保有水平耐力法による部材照査
- 段差フーチング、斜面上の基礎としての照査
- 鋼管・コンクリート複合構造橋脚、インターロッキング式橋脚
- 橋座の設計、鉄筋コンクリートによる縁端拡幅設計

### 【常時、暴風時及びレベル1地震時の照査】

- 風荷重、流水圧、地震時動水圧、土圧等を考慮可能
- 柱鉄筋の段落し部、任意の中間位置における断面照査
- 荷重ケースごとに最大2つの水位を指定可能

### 【レベル2地震時の照査】

- 地震時保有水平耐力の照査
- 固有周期算定に用いる降伏剛性の算定
- 新設柱の段落し位置照査
- 既設検討・補強設計時の損傷断面の判定

### 【落橋防止作動時の荷重状態に対する照査】

- 安定計算(直接基礎以外は運動製品で照査)
- 柱部材の地震時保有水平耐力法による照査
- フーチング部材の耐力照査(直接基礎以外は運動製品で照査)

### 【自動設定】

- はり下側絞り高さ、主鉄筋配置、スターラップ径及び内周組数を自動設定
- 柱の主鉄筋配置、帯鉄筋径を自動設定
- フーチング形状、主鉄筋配置、スターラップ径を自動設定

### 【補強工法】

はり	RC増厚(橋軸方向) RC巻立て 鋼板併用RC巻立て 鋼板巻立てアンカー筋あり 鋼板巻立てアンカー筋なし
柱	連続繊維巻立て(じん性、曲げ、せん断) PCコンファインド ピアリフレ(曲げ補強仕様)
フーチング	上面増厚 拡幅(橋軸方向・直角方向)

※全て同時補強可能

### 【図面作成部】

- 杭箱抜き、杭よけ斜め鉄筋の作図、段差フーチング対応
- かぶり詳細図の作図、フーチング補強の作図

### 【保耐法拡張オプション】

- 下部構造の慣性力を厳密に考慮した保有水平耐力法の照査に対応
- 「kha≥khc」による照査が可能

### 【REED工法オプション】

- 橋脚の外殻にSEEDフォームを使用、主鋼材としてストライプHを配置した鉄骨コンクリート構造橋脚の構築工法、構造形式に対応
- 震度連携、動的非線形解析モデルエクスポートに対応

### 適用基準及び参考文献

1. 道路橋示方書・同解説 共通編/III コンクリート橋・コンクリート部材編 /IV 下部構造編/V 耐震設計編 H24年3月 日本道路協会

## 橋脚の復元設計計算 Ver.4

旧基準の橋脚柱の照査に特化した設計計算プログラム

プログラム価格  
 ¥187,000  
 (税抜¥170,000)

Windows 10/11 対応

電子納品 3D PDF

有償セミナー

昭和55年5月道示V地震時変形性能の照査及び、平成2年から14年までの「道路橋示方書・同解説V耐震設計編」に従い、橋脚柱の照査に特化した設計計算プログラムです。

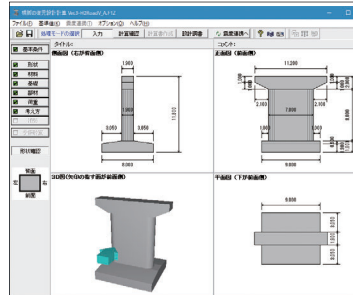
- 軸方向鉄筋配置の自動復元機能に対応
- 既設橋脚の補強の必要性を検討
- 既設橋脚の照査で、段落し部の損傷判定が可能(H2道示Vを除く)
- 補強設計:RC巻立て工法、鋼板併用RC巻立て工法、鋼板巻立て工法、連続繊維巻立て工法、PCコンファインド工法
- H2道示V、H7復旧仕様に準拠する場合、等価固有周期TEQを計算
- 帯鉄筋の高さ方向の変化(高さ間隔、有効長など)を考慮可能
- 「橋脚の設計・3D配筋(旧基準)」データのエクスポートが可能

Ver.4 改訂内容

2022年3月30日リリース

1. 常時、レベル1地震時を考慮した主鉄筋の自動復元に対応
2. 被災橋脚の材料低減を考慮した柱の照査に対応
3. 耐震補強機能拡張
4. 適用示方書簡易判定に対応

### ▼メイン画面



### ▼柱の照査方法

準拠基準	震度法	保耐法
耐震設計指針 (S47年4月)	○	—
道示V (S55年5月)	○	△※
道示V (H2年2月)	○	○
復旧仕様 (H7年2月)	○	○
道示V (H8年12月)	○	○
道示V (H14年3月)	○	○

※地震時変形性能の照査

## 箱式橋台の設計計算 (部分係数法・H29道示対応) Ver.3 / (旧基準) Ver.8

箱式橋台の設計計算、耐震・補強設計プログラム

H29道示対応  
 プログラム価格  
 ¥297,000  
 (税抜¥270,000)

カスタマイズ版  
 ¥279,400  
 (税抜¥254,000)

底版、翼壁拡張オプション  
 (旧基準)  
 ¥38,500  
 (税抜¥35,000)

Windows 10/11 対応

3DA対応

電子納品 3D PDF

旧基準  
 プログラム価格  
 ¥218,680  
 (税抜¥198,800)

底版、翼壁拡張オプション  
 (H29道示対応)  
 ¥55,000  
 (税抜¥50,000)

箱式橋台の設計計算を行うプログラムです。落橋防止構造、突起の考慮、橋座・踏掛版・翼壁・杭本体・フーチング補強(増し杭工法)・地覆などの設計をサポートしています。

- 躯体形状:受け台付き、受け台一体型(堅壁しほり指定に対応)
- 堅壁:三辺固定版、T形梁による照査、底版部:四辺固定版による照査
- 置き換え基礎の安定照査、段差フーチングの設計、直角方向の安定計算が可能
- 直接基礎では地盤支持力検討、突起を考慮した滑動照査が可能
- 杭基礎では杭本体の設計、許容支持力、杭頭結部照査、杭基礎時の安定計算における杭頭カットオフ、せん断照査、杭体断面変化に対応

- 軽量盛土、多層地盤を考慮した安定計算、部材設計(胸壁、堅壁、翼壁)に対応
- 「基礎の設計」、「基礎フレーム」、「震度算出(支承設計)」との連動設計が可能

### 【底版、翼壁拡張オプション】

- 杭基礎時の底版中央部照査、直接基礎・杭基礎時の底版中央部のレベル2照査
- 翼壁の設計において、平板解析に対応

## 部分係数法・H29道示対応

- H24道示対応製品の「箱式橋台の設計計算(旧基準)」のデータ読み込みに対応
- 杭基礎製品との連動において、2次元解析及び2.5次元解析に対応
- 胸壁、翼壁、堅壁(前壁、後壁、側壁、隔壁)部材の地震時温度変化荷重(D+TH+EQ)ケースの照査対応
- 部分係数データをファイルに保存し、H29道路橋示方書対応製品間連携可能
- 「基礎の設計・3D配筋(部分係数法・H29道示対応)」、「深礎フレームの設計・3D配筋(部分係数法・H29道示対応)」、「震度算出(支承設計)(部分係数法・H29道示対応)」と連携可能
- 橋台単独で永続変動作用時の杭基礎照査が可能

### Ver.3 改訂内容

2021年3月31日リリース

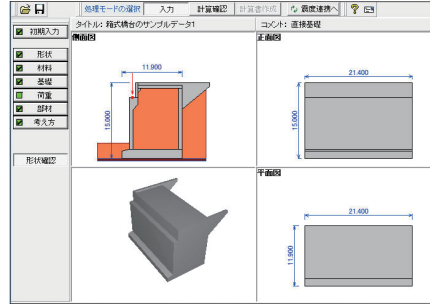
1. 杭基礎設計便覧(令和2年9月)に対応
2. 部材種類の選択の拡張
3. 震度算出-下部工-杭基礎製品の計算書統合出力に対応

## 旧基準

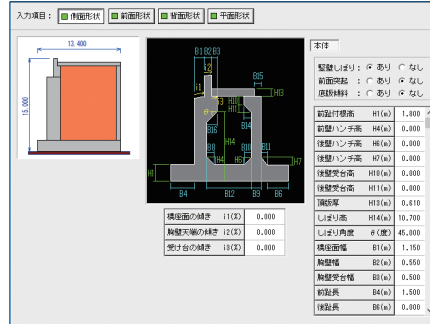
道示IV(H24.3)、設計要領(H18.4)に基づいて、箱式橋台の設計計算を行うプログラムです。

- 底板剛体照査、底板のせん断補強鉄筋比の照査、底板の補強設計(直接基礎、杭基礎)、レベル2底板設計時、任意荷重を考慮が可能
- レベル2地震時の安全性判定が可能、杭基礎連動では2.5次元の設計が可能

### ▼メイン画面



### ▼形状入力



## ラーメン式橋台の設計計算 (部分係数法・H29道示対応) Ver.3 ／(旧基準) Ver.8

静定構造物であるラーメン式橋台の設計計算、耐震・補強設計プログラム

**H29道示対応  
プログラム価格**  
¥297,000  
(税抜¥270,000)

底版、翼壁拡張オプション  
(H29道示対応)  
¥33,000  
(税抜¥30,000)

**カスタマイズ版**  
¥279,400  
(税抜¥254,000)

**旧基準  
プログラム価格**  
¥218,680  
(税抜¥198,800)

底版、翼壁拡張オプション  
(旧基準)  
¥23,100  
(税抜¥21,000)

Windows 10/11対応

3DA対応

電子納品

3D PDF

形状から自動的に骨組解析を行います。橋座の設計、踏掛版、突起の考慮、翼壁の設計、杭本体の設計などをサポートしています。

- 各部材毎に温度変化、乾燥収縮を考慮した設計検討可能
- 橋座の設計、踏掛版の設計、翼壁の設計
- 直接基礎:荷重の偏心を考慮した地盤の支持力検討、突起を考慮した滑動照査
- 置換基礎を設置し、滑動・地盤反力度を考慮可能
- 杭基礎:許容支持力算出、杭本体の設計、杭頭と底版の結合部の照査
- 「基礎の設計」、「深礎フレーム」、「震度算出(支承設計)」との連動可能

### 【翼壁拡張オプション】

- 翼壁の設計において、平板解析に対応

## 部分係数法・H29道示対応

- H24道示対応「ラーメン式橋台の設計計算(旧基準)」のデータ読み込みに対応
- ラーメン部材(前壁、後壁、頂版、桁受台、底版中央部)のほか、前後趾、胸壁、翼壁等の部材照査が可能
- ラーメン部材の隅角部では、端接合部の照査が可能
- 部分係数データをファイルに保存し、H29道路橋示方書対応製品間連携可能
- 橋台単独で永続変動作用時の杭基礎照査が可能
- 杭基礎製品との連動において、2次元解析及び2.5次元解析に対応

## 旧基準

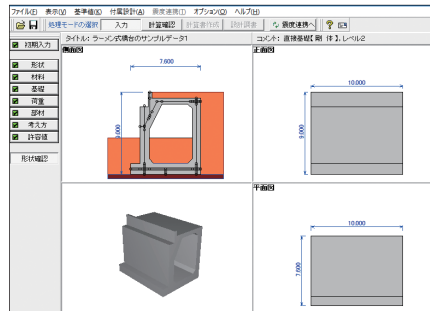
- 保有水平耐力法によるレベル2地震時の前趾・後趾・底版中央部照査
- 底版下面の段差フーチング・前後趾、底版中央部の厚さが違う形状サポート
- 底版を増厚・増幅する補強設計、底版剛体照査の検討可能

### Ver.3 改訂内容

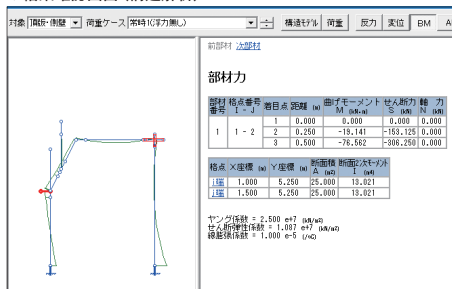
2021年3月31日リリース

1. 杭基礎設計便覧(令和2年9月)対応
2. 部材種類の選択(一般/気中/水中)の拡張
3. 震度算出-下部工-杭基礎製品の計算書統合出力対応
4. 受け台のコーベルとしての照査対応

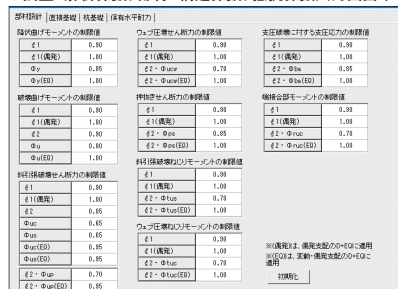
### ▼メイン入力画面



### ▼結果確認画面(構造解析)



### ▼調査・解析係数、部材・構造係数、抵抗係数入力画面(H29)



### ▼3D表示

